

新型コロナウイルス感染症に どう対応すべきか

2019年12月に中国の武漢市で新型肺炎が報告され、瞬く間に世界に広がり、WHOはこれをCOVID-19と命名した。この感染症はインフルエンザなどの従来ある呼吸器感染症とは全く性質が異なるため、対応の立案と実行に時間を要し、社会全体に大きな影響を及ぼしている。当日はこの疾患の対策の一助として、その実像と治療の現状について紹介する(講師談)。

講師

国立国際医療研究センター 国際感染症センター長



大曲 貴夫 氏

(おまがり のりお 氏)

1997年 3月 佐賀医科大学医学部 卒業
1997年 4月 聖路加国際病院 内科
2001年 7月 会田記念病院 内科
2002年 1月 The University of Texas-Houston Medical School 感染症科
2004年 3月 静岡がんセンター 感染症科 医長
2007年 4月 静岡がんセンター 感染症科 部長
2011年 7月 国立国際医療研究センター病院 感染症内科 科長
国際疾病センター副センター長
2012年 4月～現在 国立国際医療研究センター国際感染症センター センター長
2013年11月 Master of Science in Infectious Diseases (University of London)
2015年 3月 医学博士取得(愛知医科大学)
2017年 4月 総合感染症科科長(兼任)、AMR臨床リファレンスセンター長(兼任)
2019年 5月 理事長特任補佐(兼任)

日時

2021年 **10月20日** (水)
19:00～20:30

視聴

本講演会は、オンラインビデオ会議ツールZoomウェビナーを使用したライブ配信のWEB講演会です。視聴するには、Zoomに事前登録が必要になります。まずはお申込みフォームから参加申込のお手続きをお願いいたします。申込受付後に別途事前登録のご案内を差し上げます。

対象

医師、歯科医師及び医療スタッフ
(事前申込制・参加費無料)

お申込みはこちら



<http://bit.ly/3s5sriP>

QRコードをスマホ等で読み取って必要事項を入力のうえお申込みください。

※QRコードからのお申込みができない場合は、お電話でも受付いたします。

